

竜王北中学校 学校関係者評価書

令和3年2月12日（金）

（竜王北中学校）学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和3年2月1日（月）午後5時～6時

会場：竜王北中学校校長室

参加者：（学校関係者評価委員）

石合廣光 米山善文 大久保典男 小尾裕子 深沢勝彦
（学校側）

小林大 青柳俊也 齋藤幸子

I 学校側から提案された内容

- ・令和2年度自己評価書
- ・令和2年度自己評価シート集計結果

II 協議された主な内容

- ・令和2年度自己評価書に関しての意見及び感想。
- ・本校の教育活動についての質疑とそれに対する意見および今後の改善策。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・肯定的な回答（A「とてもそう思う」B「そう思う」の合計）が、51項目中45項目で85%以上となっている。また、昨年度と比較し、肯定的な回答が4項目増えている。これらのことから学校運営は概ね良好な状態にあると言える。
- ・肯定的な回答が低い（85%未満）項目は、「多忙化解消のための取組の成果」「校務支援システムの活用」「地域人材や施設を活用した教育活動」「保護者や地域の要望等を聞く機会・情報収集」「授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え定期的に実施」「小中連携を意識した教育活動」の6項目であった。また、「生き方教育（キャリア教育・進路指導）」「授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え定期的に実施」「小中連携を意識した教育活動」の3項目については、昨年度より10ポイント以上下降した。

II 特徴

- ・校内研究の主題を、『自ら学ぶ力』を身につけた生徒の育成～授業の振り返りの工夫を通して～』として、『やまなしスタンダード』の中の振り返りについて主に研究を進めてきた。コロナ禍ということで、対話的な授業についての実践は難しかったが、研究の柱である「OPPシートの有効的な活用」と「北中ノートを使った効果的な家庭学習」については、研究を十分に深めることができた。
- ・学校全体での発表の場面は限られてしまったが、感染対策に配慮して行った学園祭では、困難な状況下でも、質の高い感動を呼ぶ素晴らしい演劇が披露された。
- ・本校の最も大きな課題の一つに、不登校生徒の割合が学校規模から見て比較的多いことがある。中1ギャップの解消、お互いを認め合うことのできる授業や学級をつくっていくこと、関係機関との効果的な連携など、改めて見直していく必要がある。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- 生徒アンケートで「人前でしっかりと自分の意見を言うこと」についての数値がやや低いことについて、次のような意見が出された。
 - ・ある評議員がかつて竜王北中の職員だった頃感じていたことは、校内では元気だが外に出ると静かになってしまうというものであった。それを打破するにはどうすべきか、当時真剣に検討したことが思い出された。
 - ・本校職員が数年前に赴任したとき、生徒たちの発表する姿の素晴らしさや発表の機会が多く与えられていることに驚いた。しかし、意見をはっきり言える生徒と自分の意見を主張せず、他の人の意見を聞く方を尊重する生徒がいるのではないかという意見が出された。
- 危機管理・安心安全について
 - コロナ禍にあり、事態の先行きが不透明の中で、地震や水害などの災害発生時に、学校としてどのような対応を想定しているのかという質問があった。
 - ・災害が起こったときの対応は、市では考えているようだが、具体的な連携についての情報交換は今のところできているというわけではない。ハザードマップも新しいものができているか、対策が遅れないよう市と確認していく必要がある。
- 多忙化について
 - 現在の多忙化している学校現場の状況と教職員の意識について意見が交わされた。
 - ・実際に生徒たちと接すること以外に割く時間が増しており、中学の場合は部活動もあるので、多忙であることが当たり前となっている現状がある。
 - ・学校としてはPCによる業務の簡素化や部活動を土日のどちらかにするなど、業務改善を進めている。勤務時間の長短もあるが、多忙感を把握することが必要である。
 - ・特に若い教員たちが部活動に時間を取られている現状がある。休日出勤や日々の業務を見直す中でうまくバランスをとって、休養する時間を作れたらいいと思う。
 - ・教職員の協力態勢ができているので、疲労感や孤独感は感じないのでは、と思う。
 - ・コロナにより、行事の実施方法や仕事内容を見直す機会ができた。学園祭では文化部門のみ実施し、体育部門は大きく内容を変えて行った。コロナ対応が一段落したとき自分たちはどうしていくのか、という一つの機会になると感じた。
 - ・職場を離れたプライベートな時間に様々なアイディアが浮かび、それを仕事に生かすことができる。教職員にはそうした時間を大切にしてもらい、長く仕事を続けるためにも、アイディアや引き出しを多くもつような時間を作ってほしい。
- その他
 - 今の学校教育についての各委員の思いが語られた。
 - ・負の遺産が残る大変な時代を生きていく子どもたちに、中学生の今から危機意識をもたせ、自分の立ち位置を考えさせてほしい。どうしても人と競争せざるをえない社会状況なので、きついことを言っても将来のためと思ってやってほしい。また、リーダー的な資質や可能性をもつ生徒を引き上げてほしい。
 - ・3か月に近い休校があり、1年間の学習内容を3月までにおさめなくてはならない中で、どうしても密を避ける授業が中心となり、一斉授業形式の授業になってしまっていると思う。しかし、教職員の努力は感じているし、その上でさらにできる限りわかりやすい授業に努めてほしい。

※特記事項

- ・特になし

記載責任者（竜王北中学校 学校関係者評価委員長）氏名：石合 廣光 印